

ターゲット英文内容の 口頭導入		教科書本文などの内容を、生徒が読んで確認する前に、まず音声によって導入する活動。	
	英語の正確さ	語りの工夫	生徒を意識した英語使用
4	正確な英語（文法・語彙・発音）が用いられている。	(1) プロソディ (e.g. 声量, ピッチ, スピード, ポーズ) の効果的な調節により、大変表情豊かな語りとなっており、その韻律がターゲット英文の内容理解を深めている。 (2) あらかじめ準備していない内容であっても、即興で効果的な語りを英語で提示できている。	一文の長さを短くする、一度に提示する量を限定する、同じパターンの繰り返しによりリズムを生み出す、生徒が注意を向けるようなフレーズや情報を盛り込むなどの工夫を行い、生徒が高い集中力を保って聞き続けることができるように話している。
3	ほぼ正確な英語（文法・語彙・発音）が用いられている。	(1) ほとんどメモを見ることもなく、生徒に語りかけるスタイルで内容紹介（導入）ができている。 (2) 非言語的の伝達手段 (e.g. ジェスチャー) や視覚的資料と効果的に統合された語りになっている。 (3) 一方的に語るのではなく、生徒に繰り返させたり、生徒に質問を投げかけインタラクションをしながらこの活動を行っている。	生徒の理解度を確認し、難しいと判断された部分については、(i) 繰り返したり (repeat), (ii) 違う形に言い換えたり (paraphrase), (iii) 具体例を出し詳説したり (elaborate) している。
2	文法・語彙・発音に関して、標準英語からの逸脱は見られるが、コミュニケーションを阻害するような誤りは見られない。	原稿を時折参照しながらも、生徒とアイコンタクトを行いながら、準備したスピーチを生徒に対して提示できている。	(1) 生徒の言語知識 (e.g. どの単語・文法が既習か) を考慮に入れ、生徒が理解できる単語や文法構文を用いている。 (2) 生徒の理解を確認するために、生徒の表情を確認しながら話している（対応は必ずしもできていない）。
1	文法・語彙・発音に関して、標準英語から大きく逸脱しており、(非日本人との) コミュニケーションが困難になるレベルの英語が用いられている。	(i) 準備した原稿を棒読みしている、(ii) (生徒とアイコンタクトを取ることなく) 原稿を暗唱したものを披露するような形で話している、あるいは (iii) 教科書本文をそのまま読み上げている。	(1) 生徒の言語知識を考慮した説明になっていない。生徒がまだ習っていない単語や文法構文を（多く）用いている。 (2) 生徒がどの程度理解できているかを確認しようとしていない。